初級文型　Ⅰ

2026.3.13. 北野　麻由

＜はじめに＞

・「初級文型Ⅰ」全５回では、教科書「みんなの日本語：初級Ⅰ」を使用し、日本語文法について説いていく。

・「文型抜き出しレポートⅠ・Ⅱ」(下記①～④をまとめたもの)
⇒受付に提出。紙でもデータでも OK だが、データの場合、PDF 化すること。提出後、教育実習に進める。

①「みんなの日本語 初級Ⅰ・Ⅱ」の「練習 A」に出てくる文型
※「みんなの日本語 初級Ⅱ」は、初級文型Ⅱでやる。

②文型の代入例
(文型「 ［人］ は ［N］ です。」
代入例 ［人］：わたし、〇〇さん　［N］：学生、会社員)

② 各課の新出語彙

③教える際のポイント

※初級文型Ⅰが終わったら、実践Ⅰが受講できる。初級文型Ⅱが終わったら、実践Ⅱが受講できる。(実践Ⅰ・Ⅱは「文型抜き出しレポートⅠ・Ⅱ」が提出できていなくても、受講可。)

国語文法と日本語文法の違い

	国語文法	日本語文法
教える対象	日本語 を母語とする人	外国語 を母語とする人
教え方	細かい品詞分類を教える	シンプルでわかりやすい文法体系を提示
文法用語	※資料参照	※資料参照

直接法について

・目標言語だけを使って教える。つまり、学習者の母語や媒介語は使用しない。

・語彙は絵やジェスチャー等で、文法は例文を挙げて理解を促す。

＜みんなの日本語：初級Ⅰ＞

・(ix) I 課の学習の流れ

・P4
2.長音 (エ列長音、オ列長音に注意)
3.撥音
4.促音
5.拗音
6.アクセント
7.イントネーション

・P.5 「教室のことば」「毎日のあいさつと会話表現」「数字」：実践 (模擬授業) でいきなり使ってもいい。それ以外は、実践で使える語彙は、当該課の新出語彙まで。文型は、直前の文型まで。

第1課

＜目標＞自己紹介ができる。

＜練習Aの文型＞

1．わたしは マイク・ミラーです。
ワンさんは ちゅうごくじんです。

［人］は ［N］です。
（人の名前、国籍、職業）

2．わたしは カール・シュミットじゃ（では） ありません。

［人］は ［N］じゃ（では） ありません。
（人の名前、国籍、職業）

※否定文

3．あの人（方）は きむらさんですか。

［人］は ［N］ですか。
（人の名前、国籍、職業、「だれ（どなた）」）

※「か」
※疑問文

4．わたしは IMC の しゃいんです。

［人］は ［N］の ［N］です。
（所属先） （身分）

※「先生」と「教師」

5．マリアさんも ブラジル人です。

［人］も ［N］です。
（人の名前、国籍、職業）

6．テレーザちゃんは 9さいです。

［人］は ＿＿さいです。
［人］は なんさい（おいくつ）ですか。

※1歳、8歳、10歳、20歳の読み方注意

＜ノート＞

◎「あなた」の使い方に注意（例文1）
◎学生同士で年齢を聞く練習は避ける
◎P.11 練習C-2「失礼ですが、お名前は？」

＜会話＞「初めまして」

・簡単な挨拶と自己紹介が出来るようになること。
・「［国］から きました。」

第２課

<u>＜目標＞物を指し示して、それが何か聞いたり答えたりできる。
物の持ち主を聞くことができる。</u>　※「こそあど言葉」を学ぶ課。

＜練習Ａの文型＞

１．これは つくえです。

　　これは ［N］です。
　　これは　なんですか。

２．それは ボールペンですか、シャープペンシルですか。

　　それは［N］ですか、［N］ですか。

　　※オータナティブ・クエスチョン/選択疑問文

３．これは くるまの 本です。

　　これは［N］の［N］です。
　　これは なんの［N］ですか。

４．あれは わたしの かばんです。

　　あれは［人］の［N］です。
　　あれは だれの　［N］ですか。

５．あれは わたしのです。

　　あれは［人］のです。

　　※名詞の代わりの「の」

６．この　てちょうは　わたしのです。

　　この ［N］は ［人］のです。

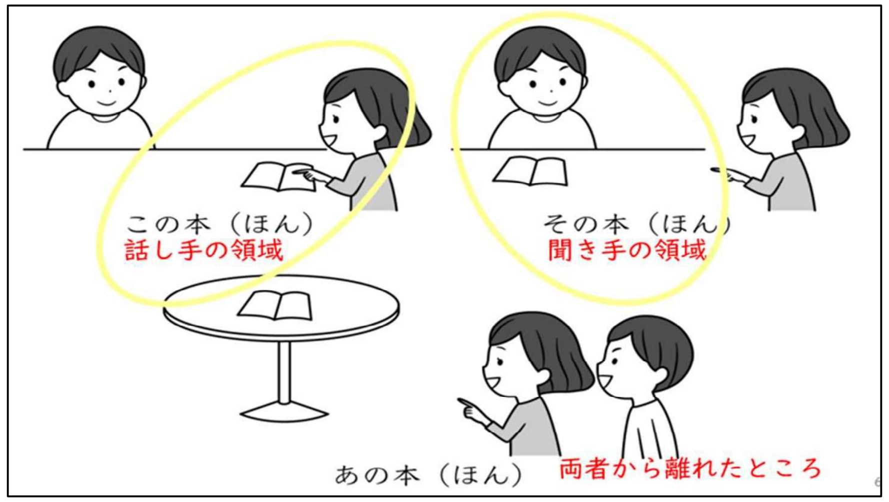
　　※名詞の代わりの「の」

＜ノート＞

◎「こそあ」について

　①現場指示：話しているとき、目の前にあるものを直接指す

聞き手と話し手の間に距離がある場合



聞き手と話し手が接近している場合

　②文脈指示：話の中のものを指す（中級）

◎質問に対する答え方
「はい、そうです。」（例文 1）
「いいえ、わたしのじゃ ありません。」（例文 7）
「いいえ、違います。」（練習 C３）

＜会話＞「これからお世話になります」
・引っ越したときの隣の人への挨拶
・部屋番号の読み方
・「これからお世話になります。」「どうぞよろしくお願いします。」
・「どうぞ。」

第３課

＜目標＞場所を示したり、尋ねたりできる。また、値段や製造国を店員に尋ねられる。　※場所を示す「こそあど言葉」を学ぶ課。

＜練習Ａの文型＞

１．ここは きょうしつです。

ここは ［場所］です。

※P.28 問題３ 「そこは 会議室です。」「あそこは トイレです。」

２．うけつけは ここです。

［N］は ここ/そこ/あそこです。
（場所・物・人）

［N］は どこですか。

３．じどうはんばいきは ２かいです。
さとうさんは じむしょです。

［N/人］は ［場所］です。

４．エレベーターは こちらです。

［N］は こちら/そちら/あちらです。
（場所・物・人）

［N］は どちらですか。

※P25 練習 B4：新出語彙「うち」は、ひらがな表記

５．くには　フランスです。

　　　［N］は　［N］です。
（国・会社・学校）

　　　［N］は　どちらですか。

　※例文５：お国は　どちらですか。

６．これは　にほんの　くるまです。

　　これは　［N］の　［N］です。
　　　（製造国・製造会社）

　　これは　どこの　［N］ですか。

７．この　ネクタイは　1500 えんです。

　　この　［N］は　＿＿＿円です。
　　この　［N］は　いくらですか。

　※「４円」、300、600、800、1000、3000、8000、10000 の
　　読み方注意（翻訳版Ｐ164 参照）

＜ノート＞
◎「どこ」と「どちら」

	物（普通）	物（敬称）	人（普通）	人（敬称）	方向	場所（普通）	場所（丁寧）
名称を問う	なに	なに	だれ	どなた	どちら	どこ	どちら
指示を要求する	どれ	どちら	どの人	どなた どの方	どちら	どこ	どちら

※カジュアルな言い方：こっち・そっち・あっち・どっち

＜会話＞「これをください」
・簡単な買い物ができる
・１階、３階、６階、８階、10 階、何階　の読み方注意
・「どうも」「［N］を見せてください」「じゃ、これをください」

第４課
＜目標＞時間と曜日が言える。簡単な日常の行動について話せる。
※初めて動詞が出てくる課。

＜練習Ａの文型＞

１．今　４じ５ふんです。

今　［時間］です。
今 なんじですか。

２．休みは すいようびです。

［N］は　［曜日］です。
［N］は　なんようびですか。

３．昼休みは １２じから　１じまでです。

［N］は ［時間］から［時間］までです。

※「から」:「起点」を表す。
「まで」:「限度」を表す。

４．わたしは 毎朝　６じに　起きます。

［人］は ［時間］に ［V］ます。

※初めての動詞述語文（マス形・自動詞）
※活用：Ｖます、Ｖません、Ｖました、Ｖませんでした

５．わたしは ９じから ５じまで 働きます。

［人］は　［時間］から ［時間］まで ［V］ます。

６．わたしは まいにち 勉強します。
わたしは　きのう　 勉強しました。

［人］ は　［時を表す言葉］　［V］ます。
※動詞の現在形（マス形）

［人］ は　［時を表す言葉］　［V］ました。
※動詞の過去形

※ただし、まだ「マス形」や「過去」という言葉は使わない。

７．ねます　ねません　ねました　ねませんでした

※動詞の４つの形（肯定現在・否定現在・肯定過去・否定過去）

＜練習Ａ以外の文型＞
・例文２：［N］は［曜日］と［曜日］です。
※「と」: 名詞と名詞を結びつける助詞

・会話：［N］の 電話番号は　＿＿＿＿＿です。
※P.38 (CD) 問題４の６

＜ノート＞

◎練習Ａ 文型 123 は、名詞述語文。文型 456 は、動詞述語文。

◎動詞述語文と時間

・「土曜日 働きますか。」（例文６）

・日本語の時制（テンス）は２つ！

1. 過去 …… 過去
2. 非過去 …… 現在、未来、習慣的行為

・「ごろ」と「ぐらい」

～ごろ…だいたいの時刻を表す（P.114、13 課）

～ぐらい…だいたいの時間を表す（P.90、11 課）

・時刻の言い方

1、6、8、10、20、30、40、50「っぷん」　3、4「ぷん」

「半」「午前」「午後」

＜会話＞「そちらは何時までですか。」

・電話番号の聞き方

・「N の電話番号は何番ですか。」→「何番」は新出語彙

第５課

<u>＜目標＞目的地、交通手段、自分の予定について聞いたり答えたりできる。</u>　※移動動詞（行きます・来ます・帰ります）を学ぶ課。

＜練習Ａの文型＞

1．わたしは スーパーへ 行きます。

［人］は ［場所］へ 行きます。

［人］は　どこへ 行きますか。

※［場所］は、「へ」で受けること！

「～に行きます」が OK になるのは、みん日Ⅱ 29 課

※練習 C1「そうですね。」

「タワポンさんは？」

2．わたしは バスで　会社へ 行きます。

［人］は ［乗り物］で　［場所］へ 行きます。

［人］は　なんで ［場所］へ 行きますか。

※「で」：交通手段　例）バスで、自転車で、車で

例外「歩いて」（練習 B3-4）＝「歩きます」のテ形

※「なんで東京へ行きますか。」（例文３）

3．わたしは ミラーさんと 日本へ 来ました。

［人］は ［人］と ［場所］へ　来ました。

［人］は　だれと ［場所］へ　来ましたか。

※「と」

※「一人<u>で</u>」（練習 B4-4、練習 C2）

4．わたしは　7がつ　15にちに　国へ　帰ります。
にちようび（に）
らいしゅう

［人］は　［時を表す言葉］（に）　国へ　帰ります。
［人］は　いつ　国へ　帰りますか。

＜練習Ａ以外の文型＞
例文６：「誕生日は いつですか。」…「～月～日です。」

＜ノート＞
◎「わたしはタクシーでうちへ帰ります。」（P40 文型２）

◎移動動詞
「行く」：①現在いる場所を離れる＝出かける → 反対は「来る」
②目的地に向かうこと → 反対は「帰る」
「来る」：何かが自分のいる場所に向かって近づく行為。
「帰る」：本来帰属している場所に戻ること。自分の家や故郷など。
「戻る」（みん日Ⅱ 32課）：移動したものが元の場所に戻る。

◎助詞の省略
「どこ（　　）も 行きませんでした。」（例文２）
「どこも 行きません。」（練習C1）

＜会話＞「この電車は甲子園へ行きますか。」
・「どういたしまして」「～番線」
・「普通ですよ。」※終助詞「よ」

第６課
＜目標＞日常生活について話せる。人を誘ったり誘いを受けることができる。　※他動詞、否定疑問文が出てくる課。

＜練習Ａの文型＞
1．わたしは パンを 食べます。

［人］は　［N］を 食べます。
なにを　食べますか。

※「を」
※他動詞が初めて出てくる。

2．わたしは サッカーを します。

［人］は　［N］を　［V］ます。
なにを　しますか。

3．わたしは デパートで 紅茶を 買いました。

［人］は　［場所］で　［N］を　［V］ます。
どこで　［V］ますか。

※「で」
※「ミラーさんに 会います」（練習B5-1）
よくある誤用例「と」「を」

4．いっしょに 京都へ 行きませんか。

いっしょに［V］ませんか。

※否定疑問文、誘いかけを表す。

※練習Ａ4の文型に対する答え方。
「ええ、いいですね。」（例文６、会話、練習 C3）
「ええ、Ｖましょう。」（練習Ｂ7）

５．あそこで やすみましょう。

［V］ましょう。

①聞き手を誘う。
例）ちょっと 休みましょう。（Ｐ48 文型４）

②誘いを受け入れる返事をする。
「Vませんか」に対して、肯定で応える表現。
例）Ａ：いっしょに 浅草へ 行きませんか。
Ｂ：いいですね。 行きましょう。

＜練習Ａ以外の文型＞
例文３：「何<u>も</u> 食べ<u>ません</u>でした。」

＜ノート＞
◎この課のポイントは２つ
①他動詞
②聞き手を誘う表現「Vませんか」「Vましょう」
※この課のねらいは、簡単な誘いに対して応じられること

◎場所につく助詞「へ」「に」「で」

例） 駅____行く。／ 駅____切符を買う。
東京____住んでいる。
銀行____勤めている。／ 銀行____働いている。

◎聞き手を誘う表現（練習 A4、5）
・「Ｖませんか」「Ｖましょう」⇒違いは？
※「Ｖましょうか」（申し出）→14 課

◎「それから」（練習 B6、例文 4）… 新出語彙
連続した行為について話せるようになる。

＜会話＞「いっしょに行きませんか。」
・友達からの誘いを受けることができる。
・「わかりました。」
・「じゃ、また あした。」

第７課

＜目標＞日本語で何と言うかわからないものについて尋ねられる。
人からもらったり、人にあげたものについて話せる。

＜練習 A の文型＞

１．わたしは はしで ごはんを 食べます。

［人］は　［N］で ［N］を ［V］ます。
なんで　［N］を ［V］ますか。

※「で」

２．わたしは にほんごで レポートを 書きます。

［人］は　［言語］で ［N］を ［V］ます。

※「で」

３．「ありがとう」は えいごで “Thank you” です。

＿＿＿＿は　［言語］で ＿＿＿＿＿です。

※「～は 日本語で 何ですか。」（例文 3）
「何と言いますか。」（21 課）

４．わたしは さとうさんに チョコレートを あげます。

わたしは ［人］に ［N］を あげます。

※主語は「わたし」に限定して教える。
※「に」「を」
※新出語彙「電話をかけます」（練習 B3-4）

５．わたしは ワットさんに/から 本を もらいました。

わたしは　［人］に/から　［N］を もらいました。

※「に」「から」
※新出語彙「［人］に 借ります。/習います。」（練習 B４、５）
※新出表現「すてきですね」（練習 C2）

６．もう 荷物を おくりましたか。

（［人］は） もう ［V］ましたか。
…はい、もう ［V］ました。（例文６）
…いいえ、まだです。（例文 7）

＜ノート＞

◎３つの項目がある
１．授受表現
２．手段・道具の「で」
３．もう［V］ました。

◎授受表現について
・いろいろ言い方がある(授受動詞、あげもらい、やりもらいなど)
・7 つの動詞がある
「あげる」グループ：あげる、さしあげる（中級）、やる（41 課）
「もらう」グループ：もらう、いただく（41 課）
「くれる」グループ：くれる（24 課）、くださる（41 課）

・モノの授受（本動詞）と恩恵行為の授受（補助動詞）
→（24 課）V てあげる、V てもらう、V てくれる
→（41 課）V てやる、V ていただく、V てくださる

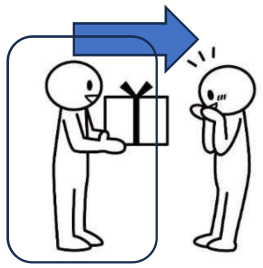
・動作の受け手にとって出来事がありがたいことを表す。
同じ事柄を違った視点から表現することで動詞の形が変わる。

①「あげる」

わたしは　　［人］に　［もの］をあげます。

（　　　　　）（　　　　　）

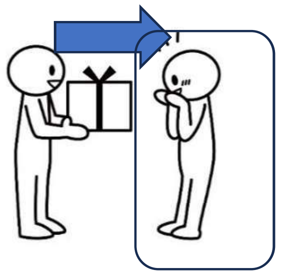
話し手



②「もらう」

わたしは　［人］に/から　［もの］をもらいました。

（　　　　　）（　　　　　）

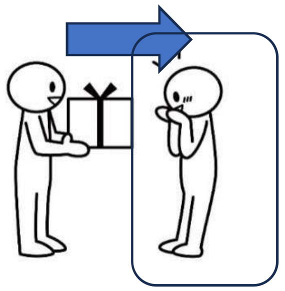


話し手

③「くれる」

［人］は　　わたしに　　［もの］を　くれます。

（　　　　　）（　　　　　）



話し手

◎P56 文型３

「わたしはカリナさんに（から）チョコレートをもらいました。」

・「に」と「から」⇒違いは？

＜会話＞「いらっしゃい」

・日本人の家を訪問したときの会話

・「いらっしゃい。」「どうぞお上がりください。」

「失礼します。」「～はいかがですか。」「いただきます。」